

## 木の下館跡 (第4次)

遺跡番号	203-084
調査次数	第4次
所在地	山形県鶴岡市水沢字水京
北緯・東経	38度42分27秒・139度44分4秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起因事業	日本海東北自動車道(温海～鶴岡)
調査面積	750㎡
受託期間	平成23年4月1日～平成24月3日31日
現地調査	平成23年9月20日～11月25日
調査担当者	福岡和彦(現場責任者)・小笠原伊之・佐藤智幸
調査協力	鶴岡市教育委員会・山形県庄内総合支庁建設部・庄内教育事務所
遺跡種別	城館跡
時代	中世・近世
遺構	曲輪跡・土坑・柱穴
遺物	陶磁器・瓦質土器・銭貨(文化財認定箱数:1箱)



遺跡位置図(1:25,000)

木の下館跡はJR羽越本線羽前水沢駅から南方約700mに位置し、西の大戸川、東を流れる大山川に挟まれた京田山(標高65m)の山上に立地する。南側を旧浜街道(水沢坂)が走る。

第4次の調査区は主郭から見て北側にあたり、国道7号や北東の方角に鳥海山を臨むことができる場所にある。今回の調査からは、第3次調査で検出した続きと考えられる7段の曲輪跡が、良好な状態で検出された。調査区端の上段から下段を縦に切ったトレンチの断面からは、切り土と盛り土をして曲輪を成形した状況を如実に

窺い知ることができた。土坑や柱穴合わせて20基程検出したが、建物跡や柵などを構成するものはなかった。

出土遺物は近世の陶磁器や瓦質土器、銭貨などがあるが、ほとんどが破片資料であるため、地域外から持ち込まれたか流れ込んだものではないかと思われる。

木の下館跡は、南側に隣接する水沢館跡とともに、日本海沿岸の越後方面～庄内平野を結ぶ、軍事上重要な場所にあったと考えられる。今回の調査区は主郭の北側にあたり、主郭への連絡路や防衛的な役割を担った場所ではないかと推察される。



調査区全景(北から)